

第106回
全国高校野球
青森大会

光星 散発5安打



4回裏、青森山田の4番原田（左奥）に2点本塁打を浴び、降板する八学光星の先発洗平

洗平、最後の夏けがに泣く

強豪八学光星を引つ張ってきた左腕洗平の最後の夏が終わった。肘のけがを抱えながらも先発を志願、四回途中2失点でマウンドを降りた。「満足を投げられず最後は悔しい形で終わってしまった」。試合後の取材で3年間を振り返ると涙があふれた。

4月ごろから肘に痛みを感じ登板を控えてきたが、負が続いている青森山田相手に投げないわけにはいかなかった。3回までは無失点に抑えたものの四回に痛みが悪化。4番原田に甘く入った球

を右翼席に運ばれ、降板の意思を監督に伝えた。それでも最後まで闘志を保った。3年間ともに切磋琢磨（せつさたくま）してきた岡本琉が背負ったピンチでは、自ら伝令に走り「1番を背負っているんだから最後まで自信を持って投げろ」と鼓舞した。

1年時から甲子園のマウンドに上がり、2年時には背番号1を背負い聖地で完封勝利を挙げた。「濃い3年間だった。最後は充実感をにじませた。」（高橋佑）